

同窓会会報

第 23 号

平成 6 年 3 月 1 日
静岡県三島市文教町 2
日大三島高校同窓会 発行



御 挨 捭

会長 高田 菊平

会員の皆様方におかれましては、お変わりなく御活躍のこととお慶び申し上げます。おかげ様をもちまして、当同窓会活動

も皆様方の御支援御協力によりまして、着実に歩み続けておりますこと、大変ありがとうございます。おかげ

さて、昨年は「平成不況」という言葉が定着してしまいましたように、経済環境は軒並低迷をたどってきてしました。それに加えて、連立政権が出来上がりましたように、政治環境も大変不安定ななかで推移してまいりました。そして 1 \$ = 100 円時代の幕開けをつげるような貿易の環境になり、さらに厳しさを増していくようになりました。

そして今年平成 6 年度は相変わらず先のみえない状況が続くものと思われ、経済の急激な回復は見込まれず、御承知のようなリストラが相次いで打ち出されてきているようあり様であります。

今年の正月のある新聞の社説に次のような題がありました。それは、「元気を出そう」という題でした。その中で、E. ヘミングウェイの言葉を引用して「元気は困難を切り開く最良の糧である」と書いてありましたが、まさしく今のこの時こそ元気を出していかなくてはなら

ないと思いました。私達はえてして、物事が上手にいかない時、その環境に要因を求めて出来るだけ背伸びをしないようにしがちでありますが、また、そういう時ほど精神的にもいま一つ力が入らないものであります。気持ちの上でも負けないように「元気を出していこう」という気力が必要であると思います。そしてそこに新しい知恵が生まれてくるものと思います。私は今年特にこの「元気を出していこう」を心掛けて実行していきたいと思っています。会員の皆様方におかれましても、それぞれ今年は厳しい戦いをしていかなくてはならないことだと思います。お互いに元気を出していきましょう。

同窓会の活動にも、今年は新たに支部活動の活性化をめざして進めていきたいと思います。幸いにして昨年より静岡支部の再生を計って、関係者の皆様方の御協力により、この 2 月 22 日(火)に、静岡支部総会を開催することとなり、大変喜んでおります。また他支部におきましても、新たな挑戦をしてもらいたいと思います。

会員の皆様方のますますのご奮闘と、当同窓会に対するかわらぬ御支援の程をお願い申し上げまして御挨拶といたします。

(平成 6 年 1 月 18 日)

第 1 期生・ニューデルタ工業株式会社社長

(三島市梅名)

富士を
背に



ご挨拶



校長 戸花時保

昨年の4月1日より、前校長薬袋先生の後を受けて、日大豊山高校から赴任して参りましたが、本校の事については、35年の長い立派な歴史と、伝統があるということだけではなくどんづわわからない状態での勤務でしたので、多くの先生や、事務課の人々、それに大学の先生方や、同窓の皆様方にも多大なご迷惑をおかけしたことと、お詫びを申し上げたいと思います。

赴任してうれしかったことは、全ての先生方がとても立派な先生方で、働き者の先生が多いということと、生徒が真面目で素直であるということでした。又同窓会の役員会や、総会に出席しても、皆さんどなたも、それぞれ社会で指導的立場でご活躍している、様子をうかがい、大変心強く思いました。

最近教育関係者が集まる席では、どこへ行っても生徒数の増減の話題で、公立であろうが私立であろうが生徒

の定員確保のために、どう工夫したらよいかに話が流れています。本校もその例に漏れず、一定のレベルの生徒を一定人数確保するために、魅力ある学校作りに腐心しているところです。学力の向上、進学率の上昇、人柄のいい社会に役立つ人材育成は勿論のこと、平成6年度から完全男女共学や、C A I 教室（コンピューター教室）の設置や外人講師の導入、新体育館の建設など、内容、外観共に充実をはかっています。

平成5年度より同窓生の皆様に本校の「校報」をお送りしました。それは本校の近況を知って頂き、皆様方の御支援をたまわればとの思いです。

同窓生の皆様方の増々のご活躍とご発展を願っております。

プロフィール

昭和10年岩手県生まれ。33年3月日本大学文理学部国文学科卒業。同年4月日本大学豊山中学高等学校勤務。平成元年10月同校教頭。5年4月日本大学三島高等学校校長。

新入会員を迎える

第34期卒業生を迎えて

小田原支部長
川口功一

卒業生の皆様、御卒業並びに同窓会御入会おめでとうございます。顧みますと私が日本大学三島高等学校第三期生として卒業した頃、小田原から東海道



線を利用して通学していた者は、僅か数名ありました。

昭和三十年代の頃とは三島駅周辺も様変わりし同窓会の打合せ等で日大三島高等学校を訪れるたびに隔世の感がする昨今であります。私共の恩師も徐々に学校を去られて寂しくなっていく反面同窓生の教職員の方々が増加し後輩の指導にあたられ、社会的にも各界、各分野に渡って同窓生が活躍されていることは二十一世紀へ向かって日大三島高等学校同窓会の果たす役割が大きくなっているものと思います。

また、私達同窓生の御子弟の多くが日大三島高等学校へ入学され、卒業して同窓の輪が拡大していくことは社会生活の上でまた、ビジネスの上でも地域の枠を越えた大きな繋がりとして発展しています。しかし、私の個人的な感覚かもしれませんのが丹那トンネルを越えて三島駅に降り立つことが卒業して年度を経るにしたがい生活圏が異なるような気がしてしまうのです。この感覚を覆すのが同窓会名のです。何年経っても母校は良いものです。

日大三島高等学校同窓会小田原支部は、我々が大学生時代に現在の同窓会が地区に完成する以前に湯河原以東の卒業生を誘い合い小田原の青少年会館に於いて恩師を高等学校よりお招きして会合を持った実績があります。時代を重ね在住の同窓生を一同に召集し懐かしい恩師をお招きし支部の輪を確認しあいたいと思います。

小田原支部の内容が多くなりましたが卒業生の皆様の同窓会入会への言葉にかえて寄稿文とさせて戴きます。

クラス幹事

- | | |
|-----------|------------|
| 1組 加藤 大典 | 15組 高梨 優子 |
| 2組 芦川 義治 | 16組 土屋 香織 |
| 3組 滝田 健太郎 | 17組 鎌野 美穂 |
| 4組 久留島 和彦 | 18組 高木 めぐみ |
| 5組 山本 晃 | 19組 窪田 英代 |
| 6組 露木 昭光 | 20組 大嶽 裕美 |
| 7組 斎藤 寛人 | 21組 田代 文子 |
| 8組 栗原 和之 | 22組 小佐野 久美 |
| 9組 高村 大輔 | 23組 佐藤 昭子 |
| 10組 増子 芳弘 | |
| 11組 秦 一英 | |
| 12組 早川 泰弘 | |
| 13組 藤島 政記 | |
| 14組 水口 弘紀 | |



以上の幹事を中心として、卒業後の新たなる人生を楽しく送ってください。皆さんの幸福を祈っています。

入会にあたり

34期生代表

田代 文子



私達、平成5年度卒業生は、3年間の教育課程を全て終了し、はれて伝統あるこの日大三島高校、第34期生として同窓会に入会させて戴くことになりました。

日大三島高校は、今年で35周年を迎え、私自身、本当に伝統の重みを感じます。その中には、代々大切に培われてきたものもあり、また新しく変化してきたものもありました。

3年前、私はこの学校に入学し、いろいろな人との出会いがありました。そして、ひょんなことから、この日大三島高校の卒業生の方にもお会いすることができます。そんな時私はとても嬉しく思い、また感激することもあります。この3年間には、多くの学友をつくることが出来ました。いろいろな興味を持ち、新しい発見もすることが出来ました。また何事にもチャレンジをするように

各支部長一覧

支部名	三島	田方	沼津	御殿場	富士	富士宮	清水	静岡	熱海	小田原
氏名	久保田光	山田守宏	今井信之	武藤康徳	西村雅幸	秋山一雅	久保田容弘	大澤貞夫	谷口俊司	川口功一
住所	駿東郡清水町柿田九	田方郡大仁町立花三一三三	沼津市市場町一〇一	御殿場市新橋一九六七	富士市横割六一一二五	富士宮市浅間町四一五	庵原郡富士川町岩淵七八一三	静岡市下川原一一五一	熱海市上多賀九一〇一	小田原市東町四一五一〇
TEL	〇五五九七一一九三三	〇五五八七六一五〇〇二	〇五五九三一一七八七八	〇五五〇八二一二三四八	〇五四五六一一五一七五	〇五四四二六一三八四八	〇五四二八一一〇八八八	〇五四二五九一四〇五九	〇四五七六八一四〇二二	(〇四六五)三四一三五三七

なり、前向きに物事を考え、判断し、結果も出せるようになりました。そんな事を考えていくと、今までの小学校・中学校よりも多くの事を学び自分が成長したんだと実感します。

これから私たちは、自分一人で選択せねばならないことが数多くあると思います。その一歩目は、進学・就職へと一人一人足を踏み出しました。時々、社会に出て働いている人々を見ていて、大変だなあと思うことがあります。でもこれからは自分たちもその道へ進むのです。悩みもあり、挫折しそうな時があるかもしれません。そんな時、誰もが「この次はいいことがある」と思ったり、あるいは「あのころは楽しかった」などと過去を振り返ったりする時があると思います。そんな、過去を振り返った時、この日大三島高校で成長した自分を見る事ができ、それがまた障害を乗り越えて、成功を収めることができたら、とても素晴らしいことだと思います。1年は早いものです。1年1年を大切に心のアルバムをつくれたらいいですよね。

日大三島高校で学び成長したことでも心のアルバムに、精一杯頑張っていこうと思いますので、先輩方の変わらぬご指導、暖かいご支援を宜しくお願ひ致します。

同窓会総会

平成5年10月16日(土)
於 田代パレス



平成5年度同窓会総会が平成5年10月16日(土)に開かれました。高田菊平会長挨拶にひきつづき、新校長戸花時保先生の挨拶があり、特に、平成6年度より、母校も完全男女共学になるとの話があった。その後の懇談会も山本徹氏の名司会によつてぎやかに行われた。

同窓会入会式

平成6年2月19日



高田菊平会長挨拶



新入会員代表挨拶
佐藤大輔君



—記念講演—

医師・登山家
今井通子
「山に私が学んだもの」



—表彰—
水口弘紀君・瀬戸口奈穂さん

新校長を迎えて【幹事会】



平成5年5月28日（金）、田代パレスにて、新校長、戸花時保先生をお迎えして幹事会が開かれた。また、前校長の薬袋邦明先生も出席され、ご退職記念品が贈られた。戸花先生のご活躍と、薬袋先生の新たな人生に幸多いことを祈るもので。

同窓会より

水口弘紀君・瀬戸口奈穂さんに 奨学金がおくられる

同窓会は、表彰規定にもとづき、水口弘紀君と瀬戸口奈穂さんに奨学金（5万円ずつ）をおくことになりました。この奨学金は、言うまでもなく在学中における、学業成績・人物・自治活動・健康に優れ、有為な人物として学校長より推薦された人におくられます。同窓会はこのお二人が、将来において、母校のためにはもちろんのこと、広く世界に役立つ人物として、大いに飛躍されることを祈ってやみません。頑張って下さい。



水口弘紀君



瀬戸口奈穂さん

同窓会より

放送部・山岳部に奨学金がおくられる

今年も、文部大臣賞を受賞した放送部に対し、また、全国高校総体登山大会で優勝した山岳部に対し、同窓会は表彰規定にもとづき、奨励金（10万円ずつ）をおくることになりました。放送部が文部大臣賞を受賞するのはこれで8度目のことです。また山岳部も、吉田武雄先生、大塚純二先生の指導のもと、めきめきと実力をつけてきました。その結果として全国優勝となりました。両部のさらなる活躍を期待します。



文部大臣賞のメンバー

(顧問) 神田 勝先生

(メンバー) 池田高士・在原大輔・根井洋輔



登山大会優勝のメンバー

写真左より 紅林 学・松野耕二・栗原治二・長野英史

田方支部会をひらいて



支部長

山田 守宏 (3期生)

日大三島高等学校
同窓会 田方地区

平成5年5月1日(土)、久しぶりに大仁「源氏」において支部会をひらきました。それぞれに忙しい中を、いつものメンバーが集まりました。函南から湯が島までの仲間が顔を合わせ、夏のひと時を、友のことや母校のことなど、懐かしい話に花を咲かせました。利害を越えて、ひとつの地域に生きる者同士が集まることは、理屈抜きにして楽しいものであります。心の絆にささえられて、田方支部も頑張っていきたいものです。

さて、偶然にも、母校に奉職している石橋勝義先生のお宅より、田方支部旗が見つかりました。思えば、昭和46年3月28日、植田正年氏が初代支部長に就任され、田方支部が結成されました。支部の歴史を物語るものとして皆様に紹介いたします。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



— 田 方 支 部 会 —

静岡支部総会

支部長 大澤貞夫 (1期)

下記の通り静岡支部設立総会を開きました。

日時 平成6年2月22日 午後7時より

場所 静岡グランドホテル中島屋

式次第 司会 戸塚副支部長

開会の辞 深見副支部長

設立までの経過報告 塚本会計

来賓挨拶 高田同窓会会长

懇談会 乾杯 松下相談役

アトラクション 永井副支部長

閉会の辞 辻副支部長

薬袋邦明先生

定年によって退職される

学校長の職にあられた薬袋邦明先生は、平成5年3月31付をもって定年退職をされました。先生は昭和38年4月1日母校に奉職されました。以来永きにわたり2科主任、教頭職を務められました。先生の新たなる人生が幸多いものであることを、同窓生一同心よりお祈りいたします。



注目された日大三島 山岳部

顧問 大塚 純二



「登山大会はどのような競技ですか?」よく聞かれる質問であるが、これはまだ良い方である。中には「登山がインターハイにあるんですか?」「山岳部は文化部じゃないんですか?」後者に至っては何をか言わんやである。これらの質問にみられるように、山岳部の高校スポーツにおける認知度は極めて低いといわざるを得ない。

高校総体における登山大会は、審査によって順位が決定される。その審査内容は一口では言い表せない。裏を返せばそれだけ複雑な内容があるわけで、審査内容を選手も顧問も十分に頭の中に入れておかないと、上位に入賞することは難しいのである。その審査内容は、体力、歩行技術は勿論のこと、設営、炊飯、装備の生活技術。気象、医薬、計画・記録、自然観察等の知識。また高校生としてのマナーも審査の対象になっている。つまり体力があるだけでは決して勝てないのである。そこで我々は『魅(見)せる登山』としてさまざまな工夫を凝らした。それは試行錯誤の繰り返しで、苦労の連続であったが、大会では他チームからも注目される所となった。その一端を全国大会報告書に掲載された感想文から一部抜粋してみた。「日大三島校のテントの工夫にはただただ感嘆するばかりであった。」(長崎西高校)「日大三島はとても参考になりました。彼らのインターハイに賭ける情熱はすごいものがあります。テント設営の時やはり一番上手なのは日大三島でした。(中略) 今回は特に計画書に力を入れて作ったわけですが、余り参考になる計画書がなかったので結構苦労しました。しかし今回の大会で日大三島の計画書を手に入れたので、次回からはかなり楽に作れると思います。」(栃木・大田原高校)

以上の様な状況の中での、3総体に続く2度目の全国優勝。これも関係各位の支援あってのこと。多謝!

清好一先生 定年によって退職される



ご挨拶

清 好 一

中途より教員の途へ転職してき
た私も、卒業生の皆様のお蔭で28
年余の教員生活を、大過なく勤め
させてもらいました。まず同窓会
の皆様に、お礼の言葉を述べさせ

て戴きたいと思います。

世の中の変換の中で、皆様の母校も大きな転換期を迎
え、新たな発展に漲っておられます。こんな折、私もやり
残して来た仕事に、何か後ろ暗さを感じるものがありますが、母校の先生方が一丸となって頑張ってくれております。どうぞ暖かい眼差しで、出身校の変遷を見守って
あげて下さい。

世界的な変動の流れが、我が国にも押し寄せて来ました。こんな時こそ同窓会の皆様の相互扶助の力が、求め
られます。母校を回想しながら、同窓の誼みに励まし合いの言葉を投げ掛けて下さい。お元気にご活躍を期待致
します。

活躍する部活動

<放送部>

●第40回NHK杯全国高校放送コンテスト

・ラジオ番組課題部門「いつか大人になる日まで」

全国1位 文部大臣賞

・朗読部門 全国優秀賞 小畠友香（3年）

<美術部>

●第10回TTCコンペ全国イラストコンクール

特選（全国1位） 遠藤里都美（3年）

<山岳部>

●全国高校総合体育大会 縦走 全国優勝

<テニス部>

●全国高校総合体育大会 男子 全国3位

・ダブルス 全国3位 上野山博城・高橋孝徳（3年）

※全国高校総合体育大会出場部

水泳・山岳・テニス・スケート・体操・

ソフトボール・柔道・卓球。

その他、多くの部が今年も活躍しました。紙面の都合
でここに載せることができませんでした。

皆様のご活躍に敬意を表するとともに、さらなる活躍
を期待いたします。



新教頭に山内昭二先生

清好一先生がめでたく定年退職
されたのにともない、新教頭に、
山内昭二先生（社会科）が平成5
年6月25日付をもって就任されま
した。先生のご活躍を、同窓生一
同心よりお祈りいたします。

平成5年度 事業報告

- 1 総会 10月16日 田代パレス（本会報4ページ）
 - (1)会長挨拶 (2)母校校長挨拶 (3)議事(別紙プリントにて配布) (4)懇談会
- 2 幹事会
 - (1)5月28日 田代パレス (本会報5ページ)
 - (2)10月4日 田代パレス 総会・静岡支部支援・忘年会などの件について
 - (3)2月4日 田代パレス 入会式・会報発行・表彰などの件について
- 3 事業
 - (1)2月19日 第34期生入会式 母校8号館
記念講演 登山家・医師 今井通子先生
テーマ「山に私が学んだもの」
 - (2)3月1日 同窓会会報第23号発行
 - (3)11月22日 忘年会 じゅん
- 4 支部
 - (1)田方 5月1日 源氏（大仁）(本会報6ページ)
 - (2)静岡 10月12日 日興会館
2月22日 グランドホテル中島屋
(本会報6ページ)
 - (3)三島 11月22日 じゅん
 - (4)沼津 10月4日 (幹事会)・1月17日 (新年会)
- 5 その他
 - (1)二期生の会 7月24日 田代パレス
(以上、紙面の都合で主なものにしました。)

<お知らせ>

次の先生方が退職されました。新たなる人生に幸多い
ことをお祈りいたします。

田上清美先生（平成5年3月19日付・定年）
渡辺勝重先生（平成5年5月13日付）
稻森佐里先生（平成5年3月31日付）

日本大学三島高等学校

同窓会規約

第十四条

ならびに常任幹事によつて構成され、必要により幹事会にか
えることができる。

幹事会は本会運営上、必要と認めた場合に臨時に特別の機関
を設けることができる。

表彰規定

前文

本規定は日本大学三島高等
学校同窓会規約第五章三十
二条に基き、その適用細則
を定めたものである。

第一条

本会々員にして、社会的
に顕著な業績をあげた者
に対し、所定の手続きを
経て表彰することができる。

第二条

日本大学三島高等学校に
在籍する者で、将来、國
家社会に貢献し、母校及
び本会の発展に寄与でき
る有為な人物及び団体に
対し、奨学金又は奨励金
を支給することができる。

第三条

最終学年に在籍し、在籍期
間中、学業成績・人物・自
治活動・健康に優れ有為な
人物として学校長より推薦
された者とする。ただし奨
学金は一名を原則とする。

第四条

(一) 奨学金の支給をうける者は、
(二) 勇著な業績をあげ更に一層
の充実・発展が期待される
ものとして、校長より推
薦された団体とする。ただ
し奨励金は一団体を原則と
する。

第五条

第一、第二条の表彰式
は、年度末とし、総会ま
たは入会式に行う。

第六条

本規定は昭和五十二年二月
十二日より施行する。

第十五条

本会は各地区に支部会を設け、本会の目的達成の推進を図る。
支部の運営については、本規約に準じ細則は各支部によるも
のとする。

第三節 支部会

第四節 事務局

事務局は幹事会のもとで本会運営を円滑ならしめるよう務める。
事務局は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第五節 編集委員会

編集委員会は幹事会に所属し、原則として年一回の会報発行、その他、本会運営上、必要な広報の任にあたる。

第六節 役員

第二十一条 編集委員会は幹事会より委嘱された者をもつて構成する。

第七節 会員

第二十二条 本会は左記の役員を置く。
会長一名、副会長二名、幹事長一名、副幹事長二名、幹事、
常任幹事、会計監査二名、幹事長を補佐する。

第八節 幹事会

第二十三条 会長、副会長は幹事会を代表し、副会長はこれを補佐する。
幹事長は幹事会を統理し、幹事長はこれを負う。

第九節 総会

第二十四条 幹事は各卒業学年の代表者が当たり、学年の意見を代弁し併せて会務を分担する。
幹事長は幹事長を補佐する。

第十節 幹事会

第二十五条 幹事は各卒業学年の代表者が当たり、地区の意見を代弁し併せて会務を分担する。
幹事長は幹事長を補佐する。

第十一節 総会

第二十六条 常任幹事は各地区支部会の代表者が当たり、地区の意見を代弁し併せて会務を分担する。

第十二節 総会

第二十七条 会計監査は総会において選出され、経理を監査し、総会にその旨を報告し承認をうける。

第十三節 総会

第二十八条 各役員は総会の承認を経て、その任につき職務にあたる。任期は二年とする。但し、重任はさまたげない。

第十四節 会計

第二十九条 会計監査は正会員は卒業時に終身会費を日本大学三島高等学校会計課に納入する。

第十五節 会計

第三十条 本会の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第十六節 会計

第三十一条 本会の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第十七節 会計

第三十二条 本会に貢献したものは会長が幹事会の議により、総会の承認を得、これを表彰することができる。

第十八節 会計

第三十三条 本会員として名譽を毀損する行為があつたときは、会長が幹事会の議により総会の承認をえ、これを除名することができる。

第十九節 会計

第三十四条 顧問は会長がこれを委嘱し、本会運営上の諮問に応える。

第二十節 会計

第三十五条 規約の改廢については幹事会の議により、総会の承認をえて行なう。

第二十一節 会計

第三十六条 制度施行改正施工昭和三十六年三月十一日昭和四十七年四月一日昭和五十三年四月三十日

第十二条 幹事会の召集は幹事長が行ない、年三回以上、原則として過半数の幹事出席のものと開催する。また、幹事長は幹事の三分の一以上の要求があつた場合は、臨時に幹事会を召集しなければならない。

幹事会には幹事長一名、副幹事長二名、庶務・会計二名、その他、必要とする役職を置き幹事会の互選により選出する。

幹事会に常任幹事会を設ける。常任幹事会は幹事会の役職員

第十三条 第十二条 第十三条